

# 黒部を未来へつなぐ



黒部宇奈月温泉駅

## < ご挨拶 >

皆さん、こんにちは。

年頭にあたり、元日に発生しました能登半島地震により亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された多くの皆様に心よりお見舞いを申し上げ、一刻も早く平穏な暮らしが戻りますように祈願いたしております。

さて、日ごろより私の活動に対しまして、ご支援ご協力いただき感謝いたします。

議員10年目を迎え、ようやく目指す未来が見えてきたように感じています。今まで学んだ事を実行して、黒部市民の暮らし1ランク上を目指して、まちの課題解決に向けて取り組んでいく1年にしたいと思っています。



黒部を未来につなぐ 成川まさゆき



まさゆき KENBUNROKU MANABINOJIKAN

## 見聞録「学びの時間」



8月25日、26日  
地方創生実践塾 in 飛騨市

- ・ファンクラブ、
- ・地域通貨、
- ・関係人口



10月17,18日  
地方制度研究会 in 福井

- ・関西電力美浜発電所、
- ・永平寺町レベル4自動運転、
- ・JA 越前たけふ農協改革



11月4日  
C2 KANAZAWA2023  
(若者のまちづくり)



11月10,11日  
地方創生実践塾 in 石巻市  
(関係人口と中間支援)

# なりかわ 黒部を未来へつなぐ 成川まさゆき

黒部市議会議員  
facebookで活動公開中!



## 【R4年9月定例会 会派代表質問】

### 1. 広報くろべについて

#### 問：広報くろべについて

答：見せ方の工夫を図っていく事に合わせて「あおーよ」のイベント情報の他、様々な行政情報について、今後もタイムリーに情報を届けていきたい。

### 2. 市民からの声について

#### 問：市民の声を集約するアプリ導入について

答：「市民の声」の回答を市HPでも公表することを検討している。

A I アプリの導入については、今後の検討課題とし、調査研究したい。

### 3. 地域おこし協力隊について

#### 問：募集方法の現状と今後について

答：「フリーミッション型」から「プロジェクト型」に検討し、地域活動も、担当エリアに設定する形としたい。雇用形態も「会計年度任用職員」、「業務委託」と、柔軟に対応していきたい。



### 4. 関係人口を増やす取組について

問：移住交流施設へのトップセールスについて  
答：今後は様々な機会を捉えて活動し、地域おこし協力隊の業務や受入体制など、外部人材の活用策について、各種情報交換を行っていききたい。

### 5. 地区役員担い手不足と地区懇談会について

#### 問：関係人口について

答：現在、実践型インターンシップの開催や、市内企業での複業人材の活用を推進している。今後は黒部ファンクラブ等、関わりをより深いものとするコミュニティづくりも検討する。

#### 問：(1) 地域役員の担い手不足について

答：地区懇談会や市長と語る会、中山間地域「話し合い」促進事業などを通して、幅広い多様な人材が連携することが重要であり、人材育成につなげていきたい。また、地域が直面する課題に対処するため、公民館のあり方検討とも歩調を合わせ、まちづくり推進員の果たすべき役割、取組内容等を明確化する必要がある。

### 6. いのちを守る防災教育・訓練について

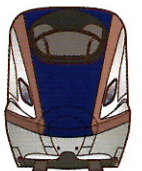
問：市内小中学校での防災学習について  
答：各学校の教育計画に基づき、年3回程度、防災訓練を実施。

いつ災害が発生するか分からない状況下で児童生徒が自分の身を守る防災学習をさらに強力に取り組んでいく。

### 7. 北陸新幹線金沢～敦賀間開業、3月16日の発表を受けて

#### 問：本市の観光の進め方

答：「宇奈月温泉開湯100周年」、「黒部宇奈月キャニオンルート一般開放・旅行商品化」、「北陸新幹線敦賀延伸」という絶好のアピール機会の好機を逃さないことが重要で、今後、様々



な施策を積極的に行っていく。

### 8. 市内海岸に漂着する流木への対応について

#### 問：関係機関連携で流木対策を

答：今後、地元の協力を得ながら、引き続き、国や県などの関係機関に要請していく。

#### 問：流木の無償提供について

答：国土交通省黒部河川事務所が、平成17年から実施。市でも、市HP、市公式LINE等を活用し、PR活動を行うなど協力していく。



### <まとめ>

今回の一般質問では、市民の命と財産を守るためと市民自らが行動を起こす為のきっかけづくりをどう作りだしていくのか。その上で地域を輝かせるための観光施策等を今後、どのように推進していくのかを質問しました。今後、人口減少は避けられません。人口が減少しても今の生活を維持させ、さらに幸せに暮らしていけるようにしなければいけないと考えています。コロナ禍でデジタルの急激な普及等、世の中が大きく変化する中で、黒部市の未来予想図をどう描くのか。今後も皆さんの意見に耳を傾け、良い提案が出来るように取り組んでいきます。

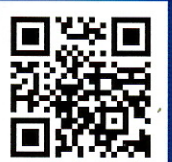


皆様のご意見をお気軽に是非、お寄せください

後援会  
連絡先

成川正幸(なりかわ まさゆき) TEL (0765)57-1189  
黒部市植木 107-7 FAX(0765)57-1189  
携帯 090-1317-7155 Mail : masa.narikawa@gmail.com

ホームページ



# 【12月個人質問】

## 1. 認知症対策について

**問：認知症と診断されている方の人数と率は**

**答：**65歳以上の高齢者人口12,848人のうち、要介護認定を受けていて「認知症自立度Ⅱ以上」の方は、令和5年3月末時点で約11%の1,418人。

**問：本市事業の利用者数と利用率は**

事業名 (R5.3末現在)	登録者数	利用率
認知症高齢者等おでかけあんしん損害保険加入事業	86人	6%
徘徊高齢者SOSネットワーク事業	86人	6%
おでかけあんしん見守りシール交付事業	20人	1.4%
徘徊高齢者等家族支援サービス(現在、新規申込休止中)	3人	0.2%

**問：認知症サポーター養成の現状と今後の取組について**

**答：**「認知症サポーター」はR5年11月末、延べ4,568人で、今後も市として、幅広い年代や職種、地域の方、若年層や接客業務を行う職種の方等に働きかけていきたい。

**問：65歳以上全員の健康診断に診断費用を全額助成で認知症診断を**

**答：**健康診査に認知症診断の項目を入れることは、現在の体制では困難。検査費用の助成を含め、他自治体の事例などを調査・研究していきたい。

**問：認知症広報についての取組と考えは**

**答：**市広報での特集ページを組む等、認知症の容態に応じた支援の情報が必要とする方に一層適切に届くよう普及啓発を推進し、認知症施策の推進に努めていく。

## 2. 観光振興策について

**問：コミュニティソーシャルワーカー設置について**

**答：**今後、地域において活動できる人材の育成や配置等、さらに既存の民生委員・児童委員との関係も含め、検討していく。

**問：医療費支払いの利便性の向上について**

**答：**自動精算支払機、コンビニ支払など、今後、情報収集を進めたい。最寄りの金融機関での支払は対応済で、ネットバンキングサービスを使えば24時間振込可能となっている。



**問：市町村認知症施策推進計画の策定についての考えは**

**答：**今後、国が策定する認知症施策推進基本計画との整合性を図りながら、本市認知症施策推進計画の策定に向け取り組んでいきたい。

## < 考察 >

団塊の世代が後期高齢者になる2025年には高齢者の5人に1人が認知症になり、介護に追われる家族も、今後さらに増えていくと思われませんが、根本的な治療方法がまだ見つかっていない病気です。だからこそ、認知症にならないための予防が大事。早期発見、早期受診は、認知症の進行を遅らせる有効な方策の一つであると考えられることから認知症予防支援をもっと進めていかなければいけません。そのためには、認知症を正しく知る事。そして、本人だけではなく家族のフォローも必要です。



## 2. 子ども施策について

**問：保育所のこども園化と幼稚園の存続・廃止の判断について**

**答：**「さくら幼稚園」は、中央と三日市の幼稚園が統合した平成25年度当時、160人定員で104人の児童が在籍していた。しかし年々減少し、現在は28人。今後も減少が続き、保育・教育環境の充実が図られないと判断される場合は、さくら幼稚園の廃止又はこども園化を含む存続、更には、その他の保育所のこども園化の必要性も含め、市全体の保育・教育施設のあり方について検討したい。

## < まとめ >

少子化の影響を早く受けるのは、保育所・幼稚園。それらをどうしていくのか。また近年、いじめ、虐待、貧困、孤立化等、子どもたちの取り巻く環境が年々ひどくなっていると思わざるを得ない状況を打破するために国は子ども家庭庁を発足させ、本市においても対策を加速させていかなければいけないと考えます。世の中はすさまじい速さで変化してきています。遅れる事のないうように対応が迫られています。



なりかわ 黒部を未来へつなぐ  
**成川まさゆき**



facebook®で  
活動公開中!





## 行政視察レポート

### 飛騨市 都竹市長「関係人口創出でまちを元気にする施策」を伺ってきました。R5.8.25 (地方創生実践塾 in 飛騨市)

「飛騨市は人口減少先進地で、既に日本の30年後を上回る高齢化率。その課題にどう対処していくのが飛騨市政のテーマ。」こう話すのは飛騨市の都竹市長。「観光以上移住未滿」の関係人口に着目した全国でも例を見ない様々な面白い取組を実行しつづけている大注目の市長のお話を伺ってきました。



#### < ファンクラブ >

飛騨市が好きと言う方が居ても直接連絡を取るという事は難しい。それを可視化出来ないのかと考えたのが、飛騨市ファンクラブ。会員数は現在、1万2千人を突破。



#### < ヒダスケ >

市民、事業者の困りごとを解決。助けてほしい人を「ヌシ」、助きたい人の事を「ヒダスケ」と呼び、手伝うとお返しもらえる。

#### < さるぼぼコイン (電子地域通貨) >

岐阜県高山市・飛騨市・白川村で使える電子通貨アプリ。ヒダスケのお返しはこれ!



#### < 地域おこし協力隊 >

GIFU

4名の協力隊が活動し、そのうちの一人、永石智貴さんが『飛騨市ファンクラブ』や『ヒダスケ!』を運営している。



#### < ふるさと納税 >

飛騨市は19.2億円。そのうちファンクラブからは5千件で1.31億円。返礼品、事務費等を差し引いた地域振興の部分を原資にファンクラブを運営している。

### 最後に

ファンクラブやヒダスケ、さるぼぼコイン、ふるさと納税などを上手く連携させた人口減少対策の取り組みはとても素晴らしい取り組みだと思いました。

#### 成川まさゆきの情報発信

stand.fm

黒部市の今や議員活動、地域づくり活動など日々の活動を毎日音声配信しています。

facebook

日々の活動記録を配信しています。

twitter

主に stand.fm を配信

Instagram

たまに犬と花の写真

「なりかわチャンネル」



私の声を聴いてください

CONNECT KUROBE TO THE FUTURE

皆様のご意見をお気軽に是非、お寄せください!



なりかわ 黒部を未来へつなぐ  
成川まさゆき

